

佳作

ちっぽけな自分

福島県 郡山ザベリオ学園小学校六年 松本 穰太朗

「感動って何だ」そもそも心の中に、そういう疑問があった。だから心に正直にしたがい辞書で調べてみた。すると「物ごとに強く感じて心が動くこと」と書いてあった。十二年間生きてきて初めて知った。たまに、こういうことがある。今回テーマにしたのもこのことだ。

僕は、今年の夏休みにアメリカへ行った。でも親とじゃなく、友達とだ。初めて七日も家族とはなれて心配だった。だからこそ、僕は心を動かされたのだ。ニューヨークの街を見るとドキッとした。人がまるで豆つぶのように、うじゃうじゃいた。ビルがビカビカ光って、いや輝いていた。上を見ると空が日本とは違い、なんて言ったらいいのかわからないが、とにかく壮大だった。その中に、ぽつんと立っている自分。あまりにも、ちっぽけだった。だから

オリンピック選手は、すごいと思う。なぜって相手が世界だから。まるで自分は「井の中の蛙大海を知らず」だなあと思った。しかも蛙の中でも、ちっちゃなちっちゃな蛙だ。せまい、せまい世界で僕は何をしていたのだろう。急に自分がばかしく思えた瞬間だった。

僕だけではない。だれもがそうだと思う。人間は、とても弱い生き物だ。一人だと何もできない。服だって3000円と書いてある。自分の国でさえないこともある。人間は弱い。だけどそれは、弱みでもあり強みでもある。人間一人一人がカンペキだったら協力することができない。でも、このようなこと、みんな考えれば分かるはずだ。しかし人間は何かが起こってみないと気付かない。実は、みんなが知っていて知らないこと。僕は、アメリカに行ったことを通してそのことの一部の一部を知っただけ。だからよく、成功したことよりも、失敗した方が学べることが多いと言うのだろう。

このようなことで僕は心を動かされた。すなわち感動した。僕は、これをきっかけに、自分の中の感動を変えたのだ。どんな生活をおくろうとも「初めて」をしなければ人生は進まない。僕より年が上の

人の方が知っていると思うけれど初めての連続が人生だ。たった十二年間しか生きてない僕に語れることじゃないが、少しは言いたい。人は初めてに感動するのだと思う。初めてを何回経験したかによって将来が変わる。少しごちゃごちゃしてるが、初めてのことに初めてチャレンジして失敗しても初めてのことだ。僕はアメリカに行って新しい夢ができた。それは全ての国に行くことだ。新しい文化にふれて学ぶことができる、人生においてのかべを乗り越えるため僕は初めてのことにチャレンジしていきいたい。もし僕が書いたこの文章を読んで僕と同じことを思ってくれていたらとてもうれしいな。たくさんnθWにチャレンジしていきいたい。そしたらその分、成果が実ると思うから。